



安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2021/05/21 改訂日: 2025/03/21 バージョン: 4.0

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : PRE - Pre Coating Degreaser
製品コード : 00633
製品グループ : 取引製品

会社情報

製造業者

Brands Alliance s.r.o.

831 06

BratislavaPri Šajbách 1

T +421244871700

msds@brandsalliance.eu - www.brandsalliance.eu

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過氧化物	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
	急性毒性 (経口)	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分 1A
	生殖毒性	区分 1A
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 2 (中枢神経系, 全身毒性)

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

環境に対する有害性	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (肝臓)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (中枢神経系, 血液系)
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期 (急性)	分類できない
	水生環境有害性 長期 (慢性)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

危険有害性 (GHS JP)

: 危険
: 強い眼刺激 (H319)
呼吸器への刺激のおそれ (H335)
眠気又はめまいのおそれ (H336)
発がんのおそれ (H350)
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)
臓器の障害のおそれ (中枢神経系、全身毒性) (H371)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (肝臓) (H372)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (中枢神経系、血液系) (H373)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 使用前に取扱説明書を入手すること。 (P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 (P202)
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 (P260)
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。 (P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 (P270)
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 (P271)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 (P280)

応急措置

: 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 (P304+P340)
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 (P305+P351+P338)
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。 (P308+P311)
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。 (P308+P313)
気分が悪いときは医師に連絡すること。 (P312)
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。 (P314)
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。 (P337+P313)

保管

: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 (P403+P233)
施錠して保管すること。 (P405)

廃棄

: 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。 (P501)

処理時の追加危険有害性

: 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
3-ブトキシプロパン-2-オール; プロピレン グリコールモノブチルエーテル	0.684	C7H16O2	(2)-2424,(7)-97	既存化学物質	5131-66-8
エタノール; エチルアルコール	22.824	C2H6O	(2)-202	既存化学物質	64-17-5
イソプロピルアルコール臭	2.54	C3H8O	(2)-207	2-(8)-319	67-63-0
ジプロピレングリコールメチルエーテル	1.4355	C7H16O3	(2)-426,(7)-97	既存化学物質	34590-94-8

4. 応急措置

応急措置

- 応急措置 一般 : 気分が悪い場合は医師の診察を受ける。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚は多量の水で洗浄する。
- 眼に入った場合 : 予防措置として眼を水ですすぐ。
- 飲み込んだ場合 : 気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

- 症状/損傷 吸入した場合 : 通常の条件下では特に無し。
- 症状/損傷 皮膚に付着した場合 : 通常の条件下では特に無し。
- 症状/損傷 眼に入った場合 : 通常の条件下では特に無し。
- 症状/損傷 飲み込んだ場合 : 通常の条件下では特に無し。

医師に対する特別な注意事項

- その他の医学的アドバイスまたは治療 : 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災危険性 : 火災の危険は一切ない。
- 爆発の危険 : 直接に爆発する危険は全くない。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 有毒な煙を放出する可能性がある。
- 消火方法 : 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。
呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。
- 消火時の保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置
- ：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。
 - ：本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
 - ：物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

非緊急対応者

- 保護具
- ：推奨される個人用保護具を着用する。
- 応急処置
- ：漏出エリアを換気する。

緊急対応者

- 保護具
- ：適切な保護具を着用して作業する。
 - ：詳細については、第 8 項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
- 応急処置
- ：不要な職員を退避させる。
 - ：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項
- ：環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法
- ：砂または土により、すべての拡散した製品を吸収する。
 - ：流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。
 - ：可能であればリスクなく漏出をせき止める。
- 浄化方法
- ：吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。
- その他の情報
- ：物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
- ：データなし
- 安全取扱注意事項
- ：作業所の十分な換気を確保する。
 - ：個人用保護具を着用する。
- 接触回避
- ：データなし
- 衛生対策
- ：この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 - ：製品取扱い後には必ず手を洗う。
- 処理時の追加危険有害性
- ：通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

保管

- 安全な保管条件
- ：涼しいところに置き、日光から遮断すること。
- 安全な容器包装材料
- ：データなし
- 技術的対策
- ：涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。
- 容器包装材料
- ：製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	イソプロピルアルコール # Isopropyl alcohol

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
許容濃度 上限	980 mg/m ³
	400 ppm
規則参照	許容濃度等の勧告（2021 年度）産衛誌 63 巻

設備対策：作業所の十分な換気を確保する。

保護具

個人用保護具：安全メガネ

呼吸用保護具：換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。

手の保護具：保護用手袋

タイプ	素材	透過	厚さ (mm)	浸透	規格
使い捨て式手袋	ニトリルゴム (NBR) クロロプレンゴム (CR)	6 (> 480 分)	0,4-0,7		EN 374-2 EN ISO 374 EN ISO 374-1

眼の保護具：安全メガネ

皮膚及び身体の保護具：適切な保護衣を着用する。

環境へのばく露の制限と監視：環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	：液体
外観	：液体
色	：濃緑色
臭い	：果実臭
pH	：約 7
融点	：データなし
凝固点	：< -20 °C
沸点	：データなし
引火点	：データなし
自然発火点	：データなし
分解温度	：データなし
可燃性	：データなし
蒸気圧	：データなし
相対密度	：データなし
密度	：データなし
相対ガス密度	：データなし
溶解度	：水に可溶。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	：データなし
爆発限界 (vol %)	：データなし
動粘性率	：データなし
粒子特性	：データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	：通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性	：通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	：通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

避けるべき条件	: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第7項参照）。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 分類できない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

3-ブトキシプロパン-2-オール;プロピレン グリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)

急性毒性 (経口)	ラット LD50 として二次文献からのデータを除き、3300 mg/kg (OECD TG 401)、1900 mg/kg および 2500 mg/kg の3つのLD50値(SIDS, access on 7. 2008)が得られた。うち2試験が区分外に該当し、その中の1試験はOECD TG 401に準拠した最も信頼性の高いデータであることから「区分外」とした。 (JISの分類基準に基づくが、国連GHS分類では区分5に相当する)
急性毒性 (経皮)	ラット LD50 として、>2000 mg/kg (OECD TG 401) および 2640 mg/kg、ウサギ LD50 として、>2000 mg/kg、3133 mg/kg、3100 mg/kg および 1400 mg/kg がそれぞれ得られた(SIDS, access on 7. 2008)。ラットでは2試験中2試験、ウサギでは4試験中3試験が区分外に該当することから区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHSの定義による液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 として、LC50 >3.52mg/L/4h および LC50 > 5.83mg/L/8h (>7.04 mg/L/4h)(飽和蒸気圧 9.97mg/L) が得られたがどちらも動物は死亡していない (SIDS, access on 7. 2008)ため区分が特定できないため分類できないとした。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし。
LD50 経口 ラット	3300 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)、95%CL: 2800-4500
LD50 経口	4500 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
LD50 経皮 ウサギ	3100 mg/kg 出典: NLM;chemIDplus、TOMES;LOLI;
LD50 経皮	8100 mg/kg
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	1420 mg/l/4h

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)

急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値=6,200 mg/kg、11,500 mg/kg、17,800 mg/kg、13,700 mg/kg (PATY (6th, 2012))、15,010 mg/kg、7,000-11,000 mg/kg (SIDS (2005)) はすべて区分外に該当している。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LDLo= 20,000 mg/kg (SIDS (2005)) に基づき区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHSの定義における液体である。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50=63,000 ppmV (DFGOT vol.12 (1999))、66,280 ppmV (124.7 mg/L) (SIDS (2005)) のいずれも区分外に該当する。なお、被験物質の濃度は飽和蒸気圧濃度、78,026 ppmV (147.1 mg/L) の 90% [70,223 ppmV (132.4 mg/L)] より低い値であることから、ppmV を単位とする基準値を用いた。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	15010 mg/kg BW 動物: ラット、動物の性別: 女性、ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)、95%CL: 14450-15560
LD50 経口	8300 mg/kg BW 動物: マウス
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50=4,384 mg/kg (EPA Pesticides (1995))、4,396 mg/kg (EHC 103 (1990))、4,710 mg/kg (EHC 103 (1990)、PATTY (6th, 2012)、SIDS (2002))、5,000 mg/kg (環境省リスク評価第 6 巻 (2006))、5,045 mg/kg (環境省リスク評価第 6 巻 (2006))、5,280 mg/kg (EHC 103 (1990)、SIDS (2002))、5,300 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、5,480 mg/kg (EHC 103 (1990)、PATTY (6th, 2012))、5,500 mg/kg (EHC 103 (1990)、SIDS (2002))、5,840 mg/kg (PATTY (6th, 2012)、SIDS (2002)) に基づき、区分外とした。今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995)、PATTY (6th, 2012)、環境省リスク初期評価第 6 巻 (2006) の情報を追加し、JIS 分類基準に従い、区分 5 から区分外に変更した。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50=12,870 mg/kg (EHC 103 (1990)、(PATTY (6th, 2012)、(SIDS (2002)) に基づき、区分外とした。なお、文献の優先度変更により、今回の調査で入手した PATTY (6th, 2012) のデータを根拠データとした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 (4 時間) =68.5 mg/L (27,908 ppmV) (EPA Pesticides (1995))、72.6 mg/L (29,512 ppmV) (EHC 103 (1990)、SIDS (2002)) に基づき、区分外とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度 (53,762 ppmV (25°C)) の 90% より低いため、分類にはミストを含まないものとして ppmV を単位とする基準値を適用した。なお、今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995) のデータを根拠とした。今回の調査で得たより信頼性の高い情報源から分類した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	5840 mg/l 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経口	4384 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	16400 mg/kg 出典: ECHA
LD50 経皮	4000 mg/kg
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
急性毒性 (経口)	ラット LD50 のデータが 3 件 (5230 mg/kg、5180 mg/kg、5400 mg/kg) ある (SIDS (2001)) が、いずれも 5000 mg/kg bw 以上であることより区分外とした。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50 が 3 件 (13000-14000 mg/kg、>19000 mg/kg、9500 mg/kg) あり (SIDS (2001))、いずれも 5000 mg/kg 以上であることより区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットに 500 ppm (3.1 mg/L) を 7 時間ばく露により死亡なしとの結果 (SIDS (2001)) から、4 時間ばく露に換算した LC50 値は 661 ppm (4.1 mg/L) 以上となるが、区分を特定できないので「分類できない」とした。なお、試験物質について評価書 (SIDS (2001)) に"saturated vapour (fog) atmosphere"と記載されているので、ミストが混在している蒸気とみなし、蒸気の基準値 (mg/L) を適用した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし。
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/l 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経皮 ラット	> 19020 mg/kg BW 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
LD50 経皮 ウサギ	9510 mg/kg BW 動物 : ウサギ、動物の性別 : 男性、ガイドライン : OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
LC50 吸入 - ラット	> 3000 mg/m ³ 出典 : ECHA

皮膚腐食性／刺激性 : 区分に該当しない

PRE - Pre Coating Degreaser	
pH	約 7

3-ブトキシプロパン-2-オール;プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404)において、試験物質原液または 75%水希釈液を 4 時間適用した場合の皮膚一次刺激指数はそれぞれ 4.0 または 2.5 であり、中等度の刺激性の評価結果 (SIDS(2000)) に基づく。

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギに 4 時間ばく露した試験 (OECD TG 404) において、適用 1 および 24 時間後の紅斑の平均スコアが 1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て 0.0 であり、「刺激性なし」の評価 SIDS (2005) に基づき、区分外とした。

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
皮膚腐食性／刺激性	EHC 103 (1990)、PATTY (6th, 2012)、ECETOC TR66 (1995) のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103 (1990) のヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、軽微ないし軽度の刺激性があると考えられ、JIS 分類基準の区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた複数の試験で刺激なし（not irritating）との結果（SIDS（2001））がある。ヒトでは皮膚に無希釈の試験物質を 5 日間適用しても刺激性なし（not irritating）の結果により、皮膚刺激物ではないとの結論付けられている（SIDS（2001））。以上より区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 強い眼刺激

PRE - Pre Coating Degreaser	
pH	約 7

3-ブトキシプロパン-2-オール;プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギ眼に試験物質の 100%液を適用した試験（OECD Guideline 405）において、軽度の角膜混濁（スコア 0）、虹彩静脈の浮腫（スコア 0.2）、時に重度の結膜浮腫（スコア 2.2）および発赤（スコア 1.0）を認め中等度の刺激性（moderately irritating）と評価された（SIDS(access on 7. 2008)）が、全て 7 日以内に消失している（SIDS(access on 7. 2008)）ことから区分 2B とした。

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた 2 つの Draize 試験（OECD TG 405）において、中等度の刺激性と評価されている（SIDS（2005））。このうち、1 つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第 1 日の平均スコアが角膜混濁で 1 以上、結膜発赤で 2 以上であり、かつほとんどの所見が 7 日以内に回復した（ECETOC TR 48（2）（1998））ことから、区分 2B に分類した。

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	EHC（1990）、SIDS（2002）、PATTY（6th, 2012）、ECETOC TR48（1998）のウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分 2 とした。

ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギに試験物質原液を 0.1 mL 適用後に角膜と眼瞼に刺激症状がみられたが 7 日目までに回復、そのほかに角膜上皮に軽微な影響が認められたとの報告（SIDS（2001））もあり、区分 2B とした。なお、ウサギに試験物質 500 mg を適用した別の試験では刺激性なしとの結果（SIDS（2001））があり、ヒトで 10 人の男性ボランティアの眼に 20%溶液を適用した試験では、軽微な刺激感、流涙、軽度な結膜の充血がみられた（ECETOC TR95（2005））と報告されている。

呼吸器感作性 : 分類できない

3-ブトキシプロパン-2-オール;プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
呼吸器感作性	データなし。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。なお、アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられている。一方、軽度の喘息患者 2 人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されている (DFGOT vol.12 vol.12 (1999)) が、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている (DFGOT vol.12 vol.12 (1999))。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
呼吸器感作性	データなし。
皮膚感作性 : 分類できない	
3-ブトキシプロパン-2-オール; プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
皮膚感作性	モルモットを用いた皮膚感作性試験(BuehlerTest : OECDGuideline406)において、惹起による皮膚反応を全く認めず感作性なし (notsensitizing) との結果 (SIDS,accesson7.2008)に基づいて区分外とした。
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
皮膚感作性	ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある (DFGOT vol.12 vol.12 (1999)) との記述があるが、「ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性がみられる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性はみられないことにより、エタノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」 (SIDS (2005)、DFGOT vol.12 vol.12 (1999)) の記述に基づきデータ不足のため分類できないとした。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
皮膚感作性	200 人の被験者の背部皮膚に適用した皮膚感作性試験において、皮膚感作性の証拠は認められず、当該物質は皮膚感作性物質ではないとの結論付けられている (SIDS (2001)) ことにより区分外とした。
生殖細胞変異原性 : 分類できない	
3-ブトキシプロパン-2-オール; プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
生殖細胞変異原性	in vitro 変異原性試験 (エームス試験、染色体異常試験、マウスリンパ腫試験) における陰性結果 (SIDS, access on 7. 2008) のみであり、in vivo のデータがなく分類できない。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
生殖細胞変異原性	in vivo、in vitro の陰性結果あるいは陰性評価がされており、分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できないため、「分類できない」とした。すなわち、マウスおよびラットを用いた経口投与（マウスの場合はさらに腹腔内投与）による優性致死試験において陽性結果（SIDS（2005）、IARC（2010）、DFGOT vol.12（1999）、PATTY（6th, 2012））があるものの、試験条件の不十分性や試験結果の誤りなどが認められ信頼性は低い又は信頼性なしと評価している（SIDS（2005）、DFGOT vol.12（1999））。また、ラット、マウスの骨髄小核試験で陰性、ラット骨髄及び末梢血リンパ球の染色体異常試験で陰性（SIDS（2005）、PATTY（6th, 2012）、IARC（2010）、DFGOT vol.12（1999））、チャイニーズハムスターの骨髄染色体異常試験で陰性（SIDS（2005））である。また、マウス精子細胞の小核試験、精母細胞の染色体異常試験、ラット精原細胞の染色体異常試験、チャイニーズハムスター精原細胞の染色体異常試験（異数性）で陰性である（IARC（2010）、DFGOT vol.12（1999））。なお、陽性の報告として、ラット、マウスの姉妹染色分体交換試験がある（DFGOT vol.12（1999）、PATTY（6th, 2012））が、SIDS（2005）などでは評価されていない。in vitro 変異原性試験として、エームス試験、哺乳類培養細胞を用いるマウスリンフォーマ試験及び小核試験はすべて陰性と評価されており（PATTY（6th, 2012）、IARC（2010）、DFGOT vol.12（1999）、SIDS（2005）、NTP DB（Access on June 2013））、in vitro 染色体異常試験でも CHO 細胞を用いた試験 1 件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった（SIDS（2005）、PATTY（6th, 2012）、IARC（2010））。なお、この染色体異常の陽性結果は著しく高い用量で生じており、高浸透圧のような非特異的影響に起因した染色体傷害の可能性があると記載（SIDS（2005））されている。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。すなわち、in vivo では、体細胞変異原性試験であるマウスの骨髄細胞を用いる小核試験（SIDS（2002））、ラットの骨髄細胞を用いる染色体異常試験（EHC 103（1990））で陰性の結果が報告されている。in vitro では、染色体異常試験のデータはなく、細菌を用いる復帰突然変異試験（SIDS（2002）、EHC 103（1990））、哺乳類培養細胞を用いる hprt 遺伝子突然変異試験（SIDS（2002））で陰性である。なお、IARC 71（1999）、環境省リスク評価第 6 巻（2008）では変異原性なしと記載している。分類ガイダンスの改訂により区分を変更した。
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
生殖細胞変異原性	in vivo の試験データがなく分類できない。なお、in vitro の試験としてエームス試験および CHL 細胞を用いた染色体異常試験でいずれも陰性（SIDS（2001））の報告がある。
発がん性 : 発がんのおそれ	
3-ブトキシプロパン-2-オール; プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
発がん性	データなし。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
発がん性	エタノールは ACGIH で A3 に分類されている (ACGIH (7th, 2012))。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分 1A に分類する。
IARC グループ	ヒトに対して発がん性がある
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
発がん性	IARC 71 (1999) でグループ 3、ACGIH (7th, 2001) で A4 に分類されていることから、分類できないとした。分類ガイダンスの改訂により区分を変更した。
IARC グループ	分類できない
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
発がん性	データなし。
生殖毒性 : 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ	
3-ブトキシプロパン-2-オール; プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
生殖毒性	ラットおよびウサギの器官形成期に経皮投与した試験 (SIDS(access on 7. 2008))、マウスの器官形成期に経口または皮下注射した試験 (PATTY (5th, 2001)) のいずれの試験も、母動物の一般毒性、胎児毒性および催奇形性は認められなかったと報告されているが、親動物の交配前からのばく露による性機能および生殖能に対する影響についてはデータがない。したがってデータ不足のため分類できない。
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
生殖毒性	ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる (PATTY (6th, 2012))。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分 1A とした。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、動物実験でも妊娠ラットに経口投与した試験で奇形の発生がみられている。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
生殖毒性	ラットの経口投与による 2 世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述がある (IARC 71 (1999)、EHC 103 (1990)) が、このデータの詳細は明らかではない。比較的新しいラットの経口投与による 2 世代試験では親動物に一般毒性影響 (肝臓及び腎臓の組織変化を伴う重量増加) が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている (PATTY (6th, 2012))、SIDS (2002))。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠雌ラットに吸入暴露した発生毒性試験において、胎児には軽微な影響 (体重低値、骨格変異) が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性 (不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加量減少) がみられる用量で着床不全、全胚吸収など生殖毒性影響がみられている (PATTY (6th, 2012))。以上の結果、分類ガイダンスに従い区分 2 に分類した。
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
生殖毒性	妊娠ラットおよびウサギの器官形成期に吸入ばく露した試験において、常温常圧下で実現可能な最高濃度 300 ppm で両動物種とも胚・胎児毒性または催奇形性を示さず、仔の発生に悪影響は認められなかった (SIDS (2001)) が、性機能および生殖能に対する影響に関してはデータがなく分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 臓器の障害のおそれ (中枢神経系, 全身毒性) 眠気又はめまいのおそれ 呼吸器への刺激のおそれ	
3-ブトキシプロパン-2-オール; プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットに 1800~3200 mg/kg を経口投与後、嗜眠、昏睡などの症状が現れ、生存動物では 2 日以内に回復している (SIDS(access on 7. 2008)) ことから区分 3 (麻酔作用) とした。
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトの吸入ばく露により眼及び鼻への刺激症状が報告されている (PATTY (6th, 2012))。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒 (筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒 (視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害)、さらに重度の中毒症状 (嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など) を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている (PATTY (6th, 2012))。ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状がみられている (SIDS (2005))。以上より、区分 3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	SIDS (2002)、EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第 6 巻 (2005) の記述から、本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制（嗜眠、昏睡、呼吸抑制など）、消化管への刺激性（吐き気、嘔吐）、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性（咳、咽頭痛）を示す（EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第 6 巻 (2005)）ことから、気道刺激性を有する。以上より、区分 1（中枢神経系、全身毒性）、及び区分 3（気道刺激性）に分類した。なお、旧分類では区分 1（腎臓）を採用したが、根拠となるデータは List 3 の情報源からのヒトの症例報告によるもので、原著は古く、List 1 及び 2 の複数の情報源では採用されておらず、標的臓器としての腎臓は不適切と判断し削除した。
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットにおいて、経口投与により中枢神経系抑制、7 時間吸入ばく露により軽度の麻酔が認められており（SIDS (2001)）、さらに、ウサギに経皮投与により一過性の麻酔作用が報告されている（SIDS (2001)）ことから、区分 3（麻酔作用）とした。また、ヒトで鼻に僅かな刺激があり、咽喉や気道に刺激を起こす最小濃度について言及されている（SIDS (2001)）。また、100 ppm 以上では最初に中枢神経障害の徴候が現れる前に、鼻、咽喉、気道の刺激が苦痛を与えるとの記述（ACGIH (2001)）により、区分 3（気道刺激性）とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	： 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (肝臓) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (中枢神経系, 血液系)
3-ブトキシプロパン-2-オール;プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットを用いた 31 日間吸入ばく露、13 週間経口ばく露、13 週間経皮ばく露、およびウサギを用いた 13 週間経皮ばく露による各試験の NOAEL は、それぞれ 3.244 mg/L (90 日補正用量：1.117 mg/L)、350 mg/kg/day、880 mg/kg/day、および 1000 mg/kg/day であり（SIDS (access on 7. 2008)）、いずれもガイダンス値区分 2 の上限を超えていることから区分外(経口、経皮、吸入)とした。なお、これらの各試験ともばく露に関連する目立った影響はほとんどなく、唯一ラット 13 週間経口ばく露試験の高用量（1000 mg/kg/day）で、組織学的変化を伴わない肝臓と腎臓重量の増加と一部臨床検査値の変化が認められている（SIDS (access on 7. 2008)）。
LOAEL (経口、ラット、90 日)	1000 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 408（げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性）、ガイドライン：EU メソッド B.26（亜慢性経口毒性試験：げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性試験）
NOAEL (経口、ラット、90 日)	350 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 408（げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性）、ガイドライン：EU メソッド B.26（亜慢性経口毒性試験：げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性試験）
NOAEL (経皮、ラット/ウサギ、90 日)	880 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 411（亜慢性皮膚毒性：90 日間試験）

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する（DFGOT vol.12（1999））との記載に基づき区分1（肝臓）とした。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国FDAは3種類の治療薬を承認しているとの記述がある（HSDB（Access on June 2013））ことから、区分2（中枢神経系）とした。なお、動物実験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットの90日間反復経口投与試験において、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている（SIDS（2005）、PATY（6th, 2012））。
NOAEL (亜慢性、経口、動物/オス、90日)	< 9700 mg/kg BW 動物：マウス、動物の性別：男性、ガイドライン：EPA OPPTS 870.3100（げっ歯類における90日間の経口毒性）
NOAEL (亜慢性、経口、動物/メス、90日)	> 9400 mg/kg BW 動物：マウス、動物の性別：雌、ガイドライン：EPA OPPTS 870.3100（げっ歯類における90日間の経口毒性）
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに本物質の蒸気を4ヶ月間吸入ばく露試験で、100 mg/m3（ガイダンス値換算濃度: 0.067 mg/L/6 hr）以上で白血球数の減少が見られ、500 mg/m3（ガイダンス値換算濃度: 0.33 mg/L/6 hr）群では呼吸器（肺、気管支）、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた（EHC 103（1990））との記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓であると判断し、血液は区分1、呼吸器、肝臓、脾臓は区分2とした。なお、吸入又は経口経路による動物試験において、区分2のガイダンス値を上回る用量で、麻酔作用、血液系への影響がみられている（SIDS（2002）、PATY（6th, 2012））。
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットの4週間経口投与試験において、高用量群の1000 mg/kg/day（90日換算：308 mg/kg/day）で一時的な流涎、肝臓の有意な重量増加と小葉中心性肝細胞肥大が認められているが、その他には試験物質投与の影響は報告されていない（SIDS（2001））。この肝臓の所見については適応性の変化と結論付けられている（SIDS（2001））ので、ガイダンス値範囲を超えた高用量でも悪影響が見出されなかったことになり、経口経路では区分外相当となる。一方、ラットの4週間経皮投与試験のNOELは1000 mg/kg/day（90日換算：308 mg/kg/day）、また、ウサギの90日間経皮投与試験のNOELは2850 mg/kg/day（SIDS（2001））であり、いずれもガイダンス値範囲の上限を超えている。さらに、ラットまたはウサギの13週間吸入ばく露試験（蒸気: 6 hours/day; 5 days/week）のNOELは200 ppm（1.212 mg/L）以上（SIDS（2001））であり、ガイダンス値範囲の上限を超えている。したがって、経皮および吸入の両経路においても区分外に相当することから、特定標的臓器毒性（反復暴露）の分類は区分外とした。
NOAEL (経口、ラット、90日)	1000 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：その他：カンボギョ No.700、ヤクハツ No.1039.61、キキク No.1014。
NOAEL (経皮、ラット/ウサギ、90日)	2850 mg/kg BW 動物：ウサギ、動物の性別：男性、ガイドライン：OECD ガイドライン 411（亜慢性皮膚毒性：90日間試験）

誤えん有害性

： 分類できない

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3-ブトキシプロパン-2-オール;プロピレン グリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
誤えん有害性	データなし。
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。旧分類のデータが確認できないことと、分類ガイダンスの変更により分類を見直した。
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
誤えん有害性	データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般	: 本物質は水生生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。
水生環境有害性 短期（急性）	: 分類できない
水生環境有害性 長期（慢性）	: 分類できない

3-ブトキシプロパン-2-オール;プロピレン グリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
水生環境有害性 短期（急性）	魚類（グッピー）の 96 時間 LC50 560-1000 mg/L、甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 EC50 > 1000 mg/L、藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）の 96 時間 EC50 > 1000 mg/L（いずれも SIDS, 2005）から、区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	難水溶性でなく（水溶解度=4.21E+004 mg/L（PHYSPROP Database、2008））、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	560 mg/l
EC50 - 甲殻類 [1]	> 1000 mg/l 試験生物（種）：Daphnia magna
EC50 96h - 藻類 [1]	> 1000 mg/l 試験生物（種）：Pseudokirchneriella subcapitata（以前の名前：Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum）
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.98 出典: EPISUITE
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類（クロレラ）の 96 時間 EC50 = 1000 mg/L（SIDS, 2005）、甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 EC50 = 5463 mg/L（ECETOC TR 91 2003）、魚類（ニジマス）の 96 時間 LC50 = 11200 ppm（SIDS, 2005）より、藻類、甲殻類及び魚類において 100 mg/L で急性毒性が報告されていないことから、区分外とした。

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
水生環境有害性 長期（慢性）	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（BOD による分解度：89%（既存点検, 1993））、甲殻類（ニセネコゼミジンコ属の一種）の 10 日間 NOEC = 9.6 mg/L（SIDS, 2005）であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、藻類、魚類ともに急性毒性が区分外相当であり、難水溶性ではない（miscible、ICSC, 2000）ことから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	14.2 g/l 試験生物（種）：Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	5463 mg/l
ErC50 藻類	1000 mg/l
NOEC (慢性)	9.6 mg/l 試験生物（種）：Daphnia magna 期間：「9 日」
NOEC 甲殻類 慢性	9.6 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.32 出典：ICSC
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）72 時間 ErC50 > 1000 mg/L、甲殻類（オオミジンコ）48 時間 EC50 > 1000 mg/L、魚類（メダカ）96 時間 LC50 > 100 mg/L（いずれも環境庁生態影響試験, 1997）であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（BOD による分解度：86%（既存点検, 1993））、甲殻類（オオミジンコ）の 21 日間 NOEC > 100 mg/L（環境庁生態影響試験（1997）、環境省リスク評価（2008））であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急性毒性が区分外であり、難水溶性ではない（In water, infinitely soluble at 25 °C、HSDB, 2013）ことから区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	10000 mg/l 試験生物（種）：Pimephales promelas
LC50 - 魚 [2]	9640 mg/l 試験生物（種）：Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	3025 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典：ICSC
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類、甲殻類、魚類のいずれの急性毒性試験においても、LC50 または EC50 が 100 mg/L を超えている（SIDS, 2003）ことから、区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	急性毒性区分外であり、難水溶性でない（水溶解度 = 1000000 mg/L (PHYSPROP Database, 2011)) ことから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	> 1000 mg/l 試験生物（種）：Poecilia reticulata
EC50 - 他の水生生物 [1]	1930 mg/l 試験生物（種）：その他の水生甲殻類：Acartia tonsa
EC50 72h - 藻類 [1]	> 969 mg/l 試験生物（種）：Pseudokirchneriella subcapitata（以前の名前：Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum）
EC50 96h - 藻類 [1]	> 969 mg/l 試験生物（種）：Pseudokirchneriella subcapitata（以前の名前：Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum）

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
LOEC (慢性)	0.5 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna 期間 : 「22 日」
NOEC (慢性)	≥ 0.5 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna 期間 : 「22 日」

残留性・分解性

PRE - Pre Coating Degreaser	
残留性・分解性	急速分解性でない
3-ブトキシプロパン-2-オール; プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
残留性・分解性	急速分解性でない
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
残留性・分解性	急速分解性
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
残留性・分解性	急速分解性
ジプロピレングリコールメチルエーテル (34590-94-8)	
残留性・分解性	急速分解性でない

生体蓄積性

PRE - Pre Coating Degreaser	
生体蓄積性	データなし
3-ブトキシプロパン-2-オール; プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.98 出典: EPISUITE
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.32 出典 : ICSC
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典 : ICSC

土壌中の移動性

PRE - Pre Coating Degreaser	
土壌中の移動性	データなし
3-ブトキシプロパン-2-オール; プロピレングリコールモノブチルエーテル (5131-66-8)	
土壌中の移動性	9.228
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.98 出典: EPISUITE
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.32 出典 : ICSC

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典 : ICSC

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

- 推奨製品/梱包処分 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
- 廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。
- 地域の廃棄規則 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
- 推奨下水処理 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
- 追加情報 : 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

UN RTDG に準ずる

国際規制

国連勧告(UN RTDG)

- 国連番号(UN RTDG) : 非該当
- 正式品名 (UN RTDG) : 非該当
- 容器等級(UN RTDG) : 非該当
- 輸送危険物分類 (UN RTDG) : 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

国内規制

その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

- 化審法 : 優先評価化学物質（法第2条第5項）
- 労働安全衛生法 : 作業環境評価基準（法第65条の2第1項）
【改正後 令和7年4月1日以降】
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2）
【改正後 令和8年4月1日以降】
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2）
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9）
危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9）

安全データシート

PRE - Pre Coating Degreaser

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

1-（2-メトキシ-2-メチルエトキシ）-2-プロパノール（政令番号：601）（5%未満）

エタノール（政令番号：61）（20～30%）

プロピルアルコール（政令番号：494）（5%未満）

【改正後 令和7年4月1日以降】

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2）

1-（2-メトキシ-2-メチルエトキシ）-2-プロパノール（5%未満）

エタノール（20～30%）

プロピルアルコール（5%未満）

【改正後 令和8年4月1日以降】

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2）

1-（2-メトキシ-2-メチルエトキシ）-2-プロパノール（5%未満）

エタノール（20～30%）

プロピルアルコール（5%未満）

特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者（法第66条第2項、施行令第22条第1項）

濃度基準値設定物質（安衛則第577条の2第2項、令和5年4月27日告示第177号、令和5年4月27日公示第24号）

皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質（安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧）

化学兵器禁止法

：有機化学物質（法第29条1、施行令第4条1）

大気汚染防止法

：揮発性有機化合物（法第2条第4項）（環境省から都道府県への通達）

海洋汚染防止法

：油性混合物（施行規則第2条の2）

有害でない物質（施行令別表第1の2）

有害液体物質（X類物質）・油性混合物（施行令別表第1第1号イ（81））

有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1）

有害液体物質（X類同等の物質）（環境省告示第148号第1号）

外国為替及び外国貿易法

：輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」

輸出貿易管理令別表第1の16の項

輸出貿易管理令別表第2（輸出の承認）

特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法）

：特定有害廃棄物（法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号）

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある。製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。